



センター試験 311 名受験

1月18日(土)、19日(日)の2日間実施された大学入試センター試験を、本校55期生の311名が鹿児島大学農学部で受験しました。前日の下見は徒歩で鹿児島大学へ。当日も、悪天候や体調不良等の大きなトラブルもなく、全員が無事に試験を終えることができました。

1月20日(月)は、各教室で自己採点をしました。この採点結果をもとに出願先を決定するので非常に重要です。56・57期生は、自己採点まで含めた3日間がセンター試験であると理解し、これからの模擬試験を通して自己採点への意識を高めていってください。

1月24日(金)には、第3回進路判定会が行われました。自己採点と各予備校の判定、さらに生徒の今後の伸びに対する教科担任の見解をもとに、出願先と合格可能性について55期生全員について話し合いました。

1月25日(土)、26日(日)は、出願先決定のための三者面談が行われました。進路検討会での議論をもとに、生徒・保護者・担任が知恵を出し合い、覚悟と決意を持って出願先を確定させました。

55期生にとって、人生の中でこれほど大きな選択を迫られることはなかったと思います。だからこそ、ここで自分が下した最終決断を信じ、二次試験に向けて全力で走り抜けてほしいと思います。

二次対策開始

1月21日(火)から、二次対策の特別授業が始まりました。二次試験で必要な教科の授業のみを受けますが、負担が減るわけではありません。センター試験以上に深い理解と思考力が求められる問題に向き合う中で、思うようにできないストレスを感じている人も多いはず。ただ、二次対策に必死に取り組む中で、必ずそれまで積み上げてきた経験が頭の中で結びついてくる瞬間がきます。初めて見る問題に対しても正しい方向性を見つけられるようになるのです。進路指導室便り10月号で紹介した、「ゴールデンタイム」の進化版が訪れるのです。その手応えをつかむ瞬間が必ずくることを信じて、目の前の1つ1つの問題に真摯に向き合しましょう。多くの先輩たちが、この二次対策の中で学力が伸びたと実感しています。センター試験はあくまでも通過点。本当に勉強が面白くなるのはここからです。

あと1年、あと2年

「本当に早かった。」これはセンター試験後の高校3年生が口にする言葉です。特に、教室にカウントダウンカレンダーが掲示される、「センター試験まであと100日」からは「あつという間だ」と言っています。56期生はあと約50週で、57期生はあと約100週でその時がやってきます。今からしっかり準備をしておきましょう。

また、56・57期生は先日受験した記述模試の復習の中で、自分が次の記述模試までの時間で伸ばすべき科目や分野を確認しましょう。模擬試験は、進路実現のための大切なツールですが、その活用度には個人差が大きいのが現状です。進路指導室便り6月号で紹介した復習の仕方を実践し、3年生になって後悔することのないように、1日1日を大事にしてほしいと思います。

ラインを意識する

《旺文社教育情報センター》のHPに掲載された記事の概要を紹介します。

総合点の「合格ライン」のクリアを目標にしよう

合格の目安となるのが、各大学が案内パンフレットやホームページで発表している、「合格ライン」だ。国公立大ならばセンター試験(5または6教科が主)と2次の個別試験(2～3教科が主)の合計得点、私立大ならば2～3教科の合計得点ということになる。もちろん、年ごとの入試問題の難易や倍率の変動、科目数や配点の変更などによって、ラインは変動する。それでも、具体的な合格者像をイメージできる、最も現実的な目安であることは確かだ。年ごとの合格ラインと自分の実力との距離を常に意識し、その距離を克服していこう。

<http://eic.obunsha.co.jp/analysis/202001/>

上記の内容は、受験生にとってはもちろん、高校1・2年生にとっても大切なことです。漠然と勉強するだけだと、不安が募ります。具体的な数値目標を設定して、段階的に確実に合格ラインに近づいていきましょう。乗り越えた達成感が自信の獲得と学習内容の定着につながります。また、すでにラインを超えている場合は、解答の精度と速度を上げる意識を持ちましょう。

国公立大学受験に向けて、ここからの4週間で充実させてください。頑張れ55期生!

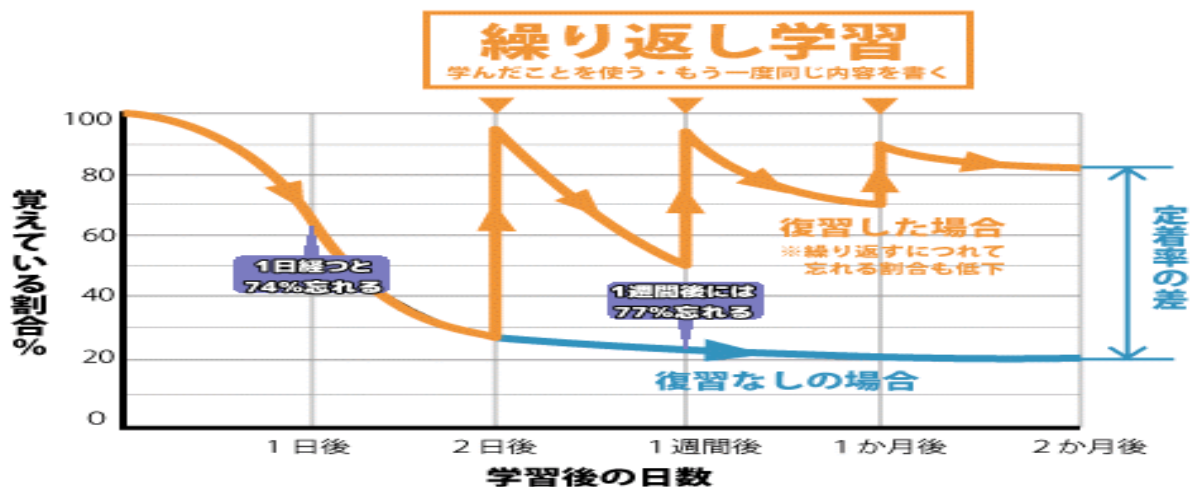
学習方法について再度考えてみよう

1年2組担任 生駒真也

新しい年を迎え、1ヶ月が過ぎようとしています。1年生の皆さんも、あと2ヶ月経つと2年生に進級することになります。2年生からの文理選択や科目選択も最終決定し、この3学期の期間で、2年生に向けての準備をしてほしいと思います。

さて、1月上旬に行われた実力考査の結果はどうでしたか。英語の答案を見てみると、「冬休み中にちゃんと勉強したのかな？」と感じさせる人が数多くいました。私が担当する英語のクラスでは、各考査後にテストの反省を書いてもらう機会を設定していますが、「次のテストに向けて、テスト1～2週間前から勉強する」と、次回の考査に向けての意気込みを書いている人が毎回多数います。知識を定着させるために、テスト前だけ学習すれば良いのでしょうか。中学生までは、そのような学習方法で、様々な試験を何とか乗り切ってきた人もいたかもしれません。しかし、高校生では、テスト前だけ学習したのでは、莫大な学習内容を定着させることは不可能です。大学入試では、高校生までに学習した内容全てが問われる上、高校生までに学習した内容に対する応用力が求められます。このことを踏まえると、地道に学習を積み重ねることが大切と言えます。本校の進路指導室だより7月号でも紹介された下記の「エビングハウスの忘却曲線」を見てみましょう。

エビングハウスの忘却曲線 (脳の忘れるしくみ) より



(グラフの出典：<https://www.sumiya-goody.co.jp/shopblog/numazu/2017/02/post-174.php>)

このグラフを見てわかるように、テスト前だけの学習では、目の前に迫っている定期考査や実力考査は乗り切ることができそうですが、その場しのぎの学習では、2年後の大学入試には対応できる実力は身に付けられないと言えるでしょう。

今の皆さんの学習方法は、その場しのぎの学習になっていませんか。宿題も1度取り組んで、間違った問題は解答・解説を見て、何となく正解にたどり着くまでの過程を確認して終わるような学習になっていませんか。1回挑戦して正解までたどり着けなかった問題に関しては、数日後→1週間後→1か月後→数か月後と時間をおいて挑戦し、定着できているかを確認することが大切です。何度も繰り返し挑戦して、正解までたどり着けるようになっていたら、定着が図ることができると言えるでしょう。勿論、授業で学習した内容に関して、何度も繰り返し復習することが大切です。

高校生で身に着けた知識や習慣というのは、これからの皆さんの人生で大きな自信に繋がります。自分の未来を切り拓くためにも、面倒くさいと思うことなく、地道な学習に取り組んでほしいと思います。

<進路指導室便り 1月号>

2年2組 担任 英語科 仮屋 まどか

とある木曜日…教室にて。「あゝ～まじヤバイ！これヤバイだろ！国語実力訂正，進研訂正，数学マーク模試，化学進研訂正，エリクサー2本分←週末課題，化学セミナー火曜日まで，日本史と生物訂正今月いっぱい…どうするわけ，これ?!無理だろ！ヤ～バイ。」

確かに，これを聞くと宿題・課題多くて大変です。でも，いつ出された課題でしょうか。実力テストは，1月10日(金)に終わっています。模試の訂正は確かに大変だとは思いますが，1年生の頃から「模試は受けたら必ず訂正がある」というのは知っているはず。模試の直後に訂正をすることはできなかったのでしょうか。締切前日まで課題を全部とっておくのではなく，出された時点で少しでも取りかかるという選択肢はなかったのでしょうか。どうして，毎回毎回こんなセリフをクラスで耳にするのか。

2年生の永遠のテーマです。「どうやったら月曜日笑って元気に登校できるのか。」毎週寝不足で，土日の疲れをたくさん抱えて登校します。4月からなんとかならないか取り組んでいます，なかなか改善されません。宿題が多いからでしょうか。先生達が宿題を減らしてくれないからでしょうか。でも，大学入試共通テストまで一年を切った今，課題は今後増え続けるばかりでしょう。

ある日，学級日誌に書いてありました。「今日はみんな移動教室が遅くて，何回か怒られることが多かったので気をつけたいです」と。確かにいつも遅いです。たまに教室に行って様子を見てみると，ギリギリまでパンをほおぼっていたり，何かを書いていた，ロッカーから教科書を取り出していたり。いつの間にか，授業の始まりのチャイムが授業の準備をするための自分が動く時間になっています。朝課外も同様です。7時半着席完了，7時35分授業スタートできていますか。掃除時間も，予鈴で行動に移り掃除開始のチャイムには開始できていますか。時間を見て前もって自分で考えて動く，という姿勢があまり見られなくなりました。

これも全て，携帯電話の影響かとも思ってしまいます。何か問題があったり分からないことがあった際は，携帯で調べたり，電話をしたりしてどうにか問題を解決します。寝坊して友達との待ち合わせに遅れたら，「ごめん，寝坊した！」とLINEをしてどうにかなります。皆さんのその瞬間の瞬発力は半端なくすごいです。けれど，それができるようになったおかげで，「未然に問題を防いだり，そうならないように自分で前もって考えたりする」という力が年々衰えてきているような気がします。3年前，週末課題を先に出してから「大会です。行ってきます！」と言って試合に参加した生徒を思い出します。

残り1年でどんなことを心がけないといけないでしょうか。毎日多忙な皆さんですが，1つ1つ自分のための勉強，後につながる勉強をすることです。試験の訂正をチェックしてみるともちろんしっかり訂正をしている生徒もいますが，訂正が1～2ページ程度だったり，とても大きな字で書いてあったり，文法は訂正するけど長文は訂正せず単語も調べていなかったりなど，これでは自分の力になりません。計画的に，余裕をもって，コツコツ取り組む。頑張れ，2年生！

～気張いやんせ56期生～ 最後のセンター試験会場にて

1月18・19日に，最後のセンター試験が鹿児島大学で実施された。本校の55期生が受験した農学部会場に，激励に行ってきた。毎年思うことは，数学では，たった60分の試験を2回受けるために3年間勉強しなければならないということである。数学は答えの数字をマークするので，自分でできたかできなかったかはすぐにわかる。できなかったときのショックが大きい。そんなときは，気分転換することが大切である。先生方の顔を見に会場から出てきて欲しい。準備してあるチョコを食べて気分一新して次の試験に進もう。共通テストまであと1年を切った今，56期生がわずか2日の試験に最善の準備をして，悔いの無い点数がとれるように祈るばかりである。(文責 塘)

大学入試も終盤。トラックでいうと第4コーナーを曲がったところか。ここが頑張りどころである。体調を崩さないよう、しっかりと睡眠、食事をとりながら規則正しい生活を送ってほしい。

さて、受験勉強は大変である。精神的にも体力的にも相当きつい。でも、何年後かに気づくはずである。「頑張ったこと、努力したことは、後で良い形で返ってくる」ことを。そして、受験は人間的に大きく成長させてくれる。「知識」「努力」「忍耐」「感謝」等々を知ることになる。ぜひ、これからの人生のために受験を乗り切ってほしい。以下に受験に関するエピソードをいくつか紹介したい。

1 高校の同級生 A 君 夢を皆に公言して現実に

高校時代 A 君から、耳にタコができるぐらい「将来パイロットになる」と聞かされていたのに、進学した先は水産学部。私はとうとう諦めたのだと思っていた。しかし、大学4年の時、航空会社のパイロット養成コースの試験を受けて見事採用。現在ではパイロットとして活躍している。

将来の夢を公言するとその夢が叶ったという話はよく聞きます。夢がある人、夢を公言してみるとよいかもしれません。

2 センター試験で失敗。E 判定からの逆転合格

センター試験当日、熱が出て体調が悪い中頑張って試験を受けた B さん。志望校判定は非情にも E 判定。しかし、B さんは気持ちをすぐ切り替えて行動します。(特別なことはしていないのですが)

- ・毎朝、早く登校して勉強
- ・2次対策授業は欠席することなく受講
- ・掃除はしっかりと取り組む
- ・毎日、Cパスを丁寧に書いて提出

合格発表の日、見事 B さんに「受験の神様」が舞い降りました。

実は B さんは、志望校判定が E 判定だった C さんと共に上記の生活を励まし合いながら続けてきました。嬉しいことに C さんにも「受験の神様」が舞い降りました。

友達と共に、「受験の神様」が舞い降りるような生活を励まし合いながらすると良い結果につながるかもしれません。

3 高学歴芸人として活躍しているお笑いコンビ「ロザン」の宇治原さんの話。

相方(菅広文さん)は同級生で、高校3年生の春に将来のことを話し、芸人になろうと決めました。京大を目指したのは、芸人で京大出身だったらいじられるという相方の一言でした。ただ、受けた模試は E 判定。試験のある翌年2月に解ければいいと割り切って、基礎から独学中心に毎日11時間勉強しました。臨んだセンター試験。数学で何回やっても計算が合わない。いよいよ時間がなくなると視界が真っ白に。失神して保健室に運ばれました。保健室で寝ながら、「30点分くらい落としても、他の教科が計算通りなら問題ない」と開き直ると、落ち着いたんです。他の教科で盛り返しました。2次試験でも解けるはずの問題に詰まりましたが、「いったん落ち着こう」と。それで乗り切れました。受験勉強では「先に過去問を解いた方がいい」「1日どれくらい勉強を進めた方がいい」とか自分で導きだしました。今、「高学歴芸人」として活動できているのも、そのおかげかもしれません。受験生にとってこの時期、体と心の健康が大事です。難しい問題が取れなくても構わない、基礎問題を落とさないという心構えでいい。自分を追い詰めすぎないことも大切です。